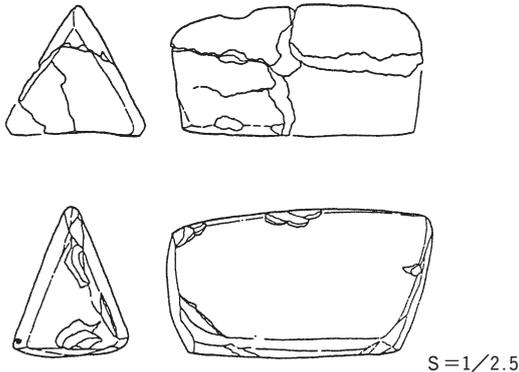


出土が知られている竹崎式土器が出土しており、県内では稀少な発見となっている（第3図）。

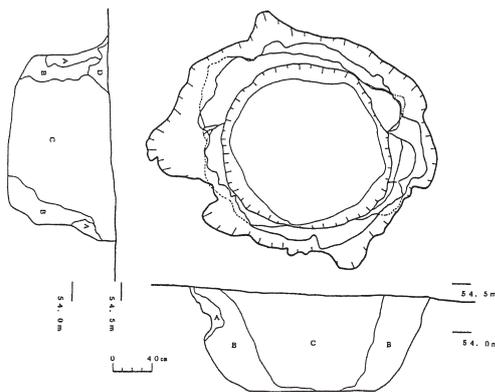
また、縄文時代中期後半～後期初頭に北陸から東



第4図 三角壩形土製品（上）・石製品（下）

北南部を中心に出土する三角壩形土製品・石製品に類似した資料が出土しており（第4図）、海を通じた交流などを考える上で貴重な資料である。

縄文時代晩期では、竪穴住居跡や貯蔵穴と思われ



第5図 土坑実測図

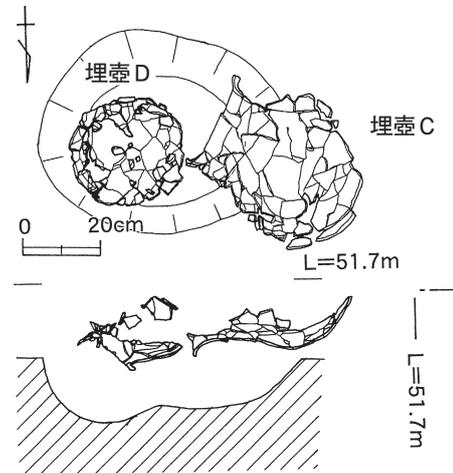
る土坑が検出されている（第5図）。このほか、異形勾玉や管玉、石刀などの遺物が出土している。なかでも異形勾玉は、新潟県糸魚川産の石材を利用しており、注目される発見である。

縄文時代晩期～弥生時代前期のいわゆる刻目突帯文期の本格的な調査は、金峰町高橋貝塚の発掘以来約40年ぶりのことで、如意状口縁をもつ甕などの一括資料が土坑内から良好な状態で出土している。今後、該期の研究の進展に寄与するものと思われる。

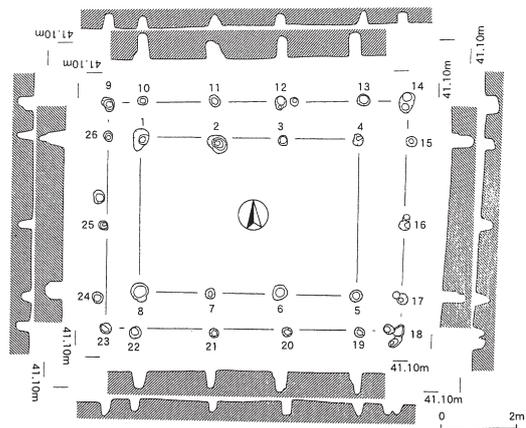
弥生時代では、前期の埋壺が4基（第6図）、前

期末～中期該当の竪穴住居跡が5軒検出されている。なかでも2号住居跡からは中九州系の土器とともに炭化したドングリが出土しており、薩摩半島西岸における土器の広がりや食文化の一端を考える貴重な資料である。

古墳時代は住居跡3軒のほか、貝殻類の入った土



第6図 埋壺実測図

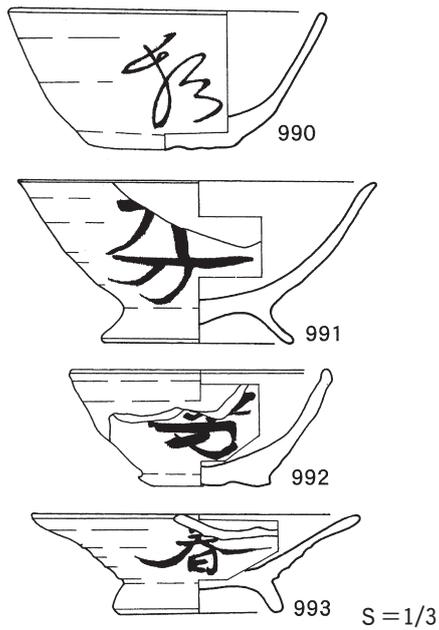


第7図 四面庇建物跡実測図

坑などが検出されている。

平安時代で特筆すべきは、第1地点で検出された15棟の掘立柱建物跡群である。四面庇建物跡や倉庫跡と思われる総柱建物跡が含まれることから役所跡や寺院跡など、特殊な建物跡群である可能性が高いと考えられる（第7図）。

この時期の遺物は、土師器・須恵器を中心に4万



第8図 墨書土器

点以上出土している。特に、「春」・「奉」・「松」・「厨」などの文字が描かれた墨書土器や刻書土器が計200点出土しており（第8図）、県内における古代史の

解明に糸口を与えるものとなるであろう。

近世は、安永7年（1777）以前に参勤交代でも利用された九州街道（出水筋）の一部と思われる道跡が検出され、注目を浴びた。両脇に排水溝を備えており、埋土からは、薩摩焼などが出土している。このほか、道跡の周辺からは、鍛冶炉や建物跡などの遺構も検出され、街道添いの生業を考える上で貴重な発見となっている。このほか、土壙墓が12基検出され、人骨とともに寛永通宝などが出土している。

特徴

弥生時代の集落跡である。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「市ノ原遺跡（第1地点）」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』49

（三垣恵一）